

# 水辺のごみ見つけ! 2024

## [全国水辺のごみ調査] 調査報告書



### 目次

水辺のごみ見つけ! について	1
水辺のごみ見つけ! 2024調査結果 [全体]	3
[河川管理者]	5
考察 参加者のコメント、集計データより	7
アンケート結果より	9
水辺のごみ見つけ! から見えてきたこと	11
川ごみ問題を考える	13
ありがとうございました	14



# 水辺のごみ見つけ！ 全国水辺のごみ調査について

全国川ごみネットワークは、  
2016年から水辺に散乱するごみの個数調査を行っています。  
個数を調査するとともに、ごみ削減について考えます。

## 目的・概要

水辺に散乱するごみの状況を全国規模で把握し、ごみの散乱防止対策、水辺の環境保全活動に役立てる

## 調査日

(毎年) 4月1日～11月30日 の任意の日

## 調査項目

1)飲料ペットボトル 2)レジ袋 3)カップ型飲料容器 の個数

飲料ペットボトル



レジ袋



カップ型飲料容器



## 参加の方法

### 1. 準備

調査日、場所を決め、  
ごみの処理方法を確認

大量のごみの回収が見込まれる場合は、  
処理方法について事前に自治体に相談します。  
個人の場合は、自宅に持ち帰り  
処理しましょう。

エントリー不要

### 2. 当日

調査・できればごみ拾い  
3品目のごみの個数を調べる  
(ペットボトルのみの調査でもOK)

なぜ、ここにごみがあるのか？  
ごみを減らすためにできることなどを  
参加者同士で考え(話し合い)ましょう。

### 3. 報告

報告シートを送付

以下の(1)または(2)の方法で、  
調査した個数、参加人数、距離、  
調査場所などを報告しましょう。

## 報告方法

以下のいずれか、利用しやすい方法で報告します。

- (1)報告フォーム(直接入力用)を利用：スマホやPCから簡単に入力できます。
- (2)報告シート(エクセル、PDF)を利用し：シートに結果を入力(または記載)し、Eメール、またはFAXで送信します。





## 2024参加者募集

- チラシ(裏面が報告シート)を作成し、各所で配布しました。
- 身近な水環境の一斉調査に合わせての調査をお願いしました。
- 国土交通省の地方整備局を通じて、各河川事務所に調査をお願いしました。
- ホームページ、SNS(Facebook、X)などで参加者を募集しました。

## 調査方法のコツ

### ■ごみ回収の分別に合わせて袋を分ける。

- 一般的に、回収する自治体の分別に合わせてごみ袋を用意して、分別しながら回収します。最後に調査項目の個数をカウントします。(例、燃やすごみ/燃やさないごみ/ペットボトル/缶 など)



**【コツ】** レジ袋とカップ型飲料容器専用に分のごみ袋を用意すると、最後にカウントしやすくなります。

- ごみがあまり多くないところでは、1つの袋でまとめて回収し、最後に分別します。(ごみ袋の種類が多いと、袋自体がごみとなってしまいます)

- 大量にごみがあるところでは、拾いながらカウントして袋に入れ回収します。

**【コツ】** 記録係の人が記録シートとペンを持ち、周囲の人のカウントを聞いて記録していきます。



拾う人は随時記録係の人にカウントを伝えていきます。

※全てのペットボトルのカウントが難しい場合、一部(全体の10分の1程度)の袋の中の本数だけを数えて、1袋当たりの本数の平均を知り、全体の袋数を掛けて算出する方法も有効とします。

### ■独自の調査項目を追加

- 調査3項目だけでなく、地域独自で散乱状況を知りたいごみがある場合、たばこ、食品容器、発泡スチロール破片などの項目を追加した独自シートで調査し、地域のごみの状況を把握するのに役立ててください。



## ■なぜ、調査項目がこの3項目なの？

簡易に調査ができるよう3項目に絞りました。

### 【ペットボトル】

ポイ捨てごみとして多く、従前より指摘されている品目であることから選定しました。

### 【レジ袋】

海洋生物への影響等を指摘され、2020年より有料化の対策が取られ、その効果等を推察したいことから選定しました。

### 【カップ型飲料容器】

本調査開始当初、店頭での販売が拡大していることから、今後の環境への流出状況を把握したく選定しました。

※カップ型飲料容器は、フタ(やストローなど)が付いて、飲める飲料の容器です。

コンビニカフェ、テイクアウト容器、スーパーなどでも販売されて利用されている容器です。フタがないカップだけでも数え、フタだけの場合は数えません。



# 水辺のごみ見つけ！ 2024調査結果「全体」

2024年も多くの方から報告をいただきました。  
全国からいただいた報告を集計しました。

## 2024概要



調査期間： 2024年4月～11月 参加人数： 延べ 13,203人  
報告件数： 820件 調査距離： 312.6km

## 調査地点による内訳

(調査地別内訳)	川	海	湖沼	合計
飲料ペットボトル(本)	35,642	1,814	867	38,323
レジ袋(枚)	4,607	391	268	5,266
カップ型飲料容器(個)	2,527	61	157	2,745
調査件数(件)※1	724	66	30	820
調査範囲(Km)※2	283.56	7.48	21.57	312.61
参加人数(人)	12,487	203	513	13,203

● その他、まちで14件、合計：ペットボトル166/レジ袋74/カップ型飲料容器38

● その他、河川管理者から重さや容積などの参考情報7件

● 学生による、同時期・同一地域での調査は上記に含まず。

70件合計:ペットボトル231/レジ袋105/カップ型飲料容器30

※1) 同じ地点でも調査時期が異なる場合は複数件としてカウントしています。

※2) 川の両岸を調査した場合、片側の水辺距離の2倍で計算すると調査した水辺の長さは405.7kmになりました。

## 調査参加人数が<sup>3</sup>増加

2023年と比較して、調査件数は、873件→820件 に減少しましたが、参加人数は、7,401人→13,203人 と大きく増加しました。

河川管理者が大勢の市民と共に実施された調査報告が増えたことによると考えます。

## 39都道府県で調査を実施

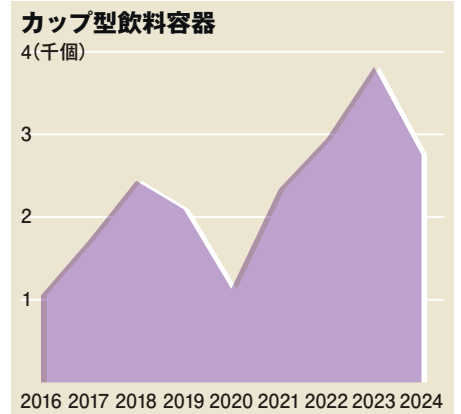
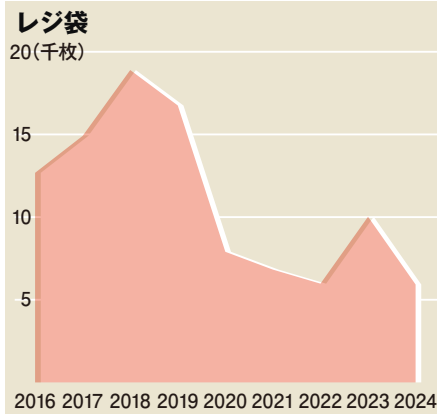
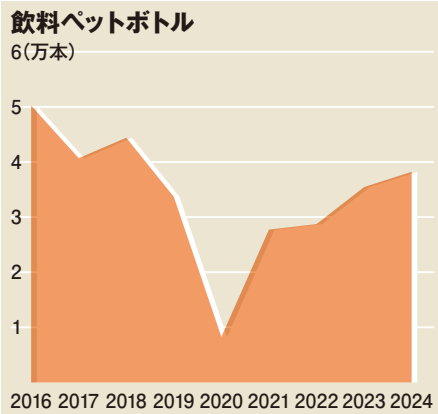
2024年に調査された地点が1カ所以上ある都道府県は39となりました。

47都道府県全てで調査実施されることを目指します。



## 減らないペットボトル

2024年は、レジ袋、カップ型飲料容器は昨年に比べ減少していますが、ペットボトルだけは2021年以降増加の一途です。



ペットボトル数は、大量に回収される地域の結果や、河川管理者による調査も加わったことが大きく影響しています。それ以外にもそれぞれの年の大規模回収活動の影響があります。

2021年以降レジ袋だけは減少傾向となっているのは、2020年7月の有料化による効果であると推測します。

2020年のコロナ禍による件数・人数の減少を受け回収量はいずれも減少しました。2021年以降は、件数・人数ともに全体的に増加傾向が続いています(P11 グラフ参照)。

## 参加者のコメント 一部抜粋

市民より

河川管理者より

### ■人が集まる場所に多い/人目につかない場所に多い

人が多く集まる場所にも関わらず、ごみ箱が少ないのが問題。ごみ箱の設置を！ (鴨川、高瀬川、他多数)

近くにグラウンドや広場があり、河川敷にBBQなどで訪れる人々のポイ捨てが多い (木曾川、他)

コンビニ周辺のごみ問題が多い。罰金制度を導入することでごみ問題に対処できるのではないかと (天神川、他)

車で進入しやすく、橋脚付近は人目につきにくく不法投棄が多い。注意看板を (胆沢川、他多数)

### ■ごみ拾いを定期的に行われている方からは……

とにかくペットボトルが多すぎる！ 上流からの啓発が重要 (球磨川)

堤防上は車が通っており投げ捨てが多い (彦山川、他)

出水期なので、大雨が降るたびに川の岸辺に漂着ごみが多く到達する (筑後川、保津川、他)

釣り客(大抵一名)が草むらになんでも捨てていく。定期的同じ人がポイ捨てしている (江戸川、猪名川、他)

繁茂した草の中に多く、草丈が長い雑草を除去して、捨てにくい環境にする (揖保川)

上流で捨てられたごみが漂着した (菊川、淀川、他多数)

### ■ごみが少なくなっている！

近年はごみの投棄が目立って少なく、草刈りや清掃活動が効果を上げている。ただし広範囲の草刈り作業が大変 (石神井川)

水辺の楽校として整備されており、人が集まりやすい場所であるが、草刈りや堰堤周辺の定期的な清掃により、ごみは比較的少なかった (遠賀川)

ごみ袋は有料化になってから投棄が少なくなった (山国川)

車止めを設置したためごみの回収量が大幅に減った (札内川)





# 水辺のごみ見つけ！ 2024 調査結果 「河川管理者」

2022年からは、国土交通省の各地方整備局を通じて、全国の一級河川の河川管理者に調査協力をお願いしています。市民と連携した清掃活動などでの調査、河川管理者単独の調査などの報告をいただいています。

## 2024年 河川管理者の調査

地方整備局	報告地点数	調査水系数／全水系数	調査実施人数	調査距離(水辺の距離)m	飲料ペットボトル(本)	レジ袋(枚)	カップ型飲料容器(個)
北海道	14	7/13	972	16,800	2,109	1,227	420
東北	26	9/12	1,052	27,043	2,001	251	78
関東	1	1/8	3	500	553	0	0
北陸	2	2/12	4	850	61	0	4
中部	34	12/13	4,539	17,760	1,961	259	247
近畿	17	6/10	181	3,000	2,163	88	47
中国	12	7/13	96	8,315	631	144	45
四国	6	4/8	631	2,900	669	14	9
九州	4	4/20	338	4,300	131	25	12
合計	116	52/109	7,816	81,468	10,279	2,008	862

## 河川管理者の調査実施河川 (順不同)

- 1) 北海道：永山新川、後志利別川、豊平川、夕張川、幾春別川、石狩川、千歳川、漁川、札内川、鶴川、天塩川、湧別川、常呂川
- 2) 東北地方：高瀬川、鳴瀬川、北上川、吉田川、竹林川、江合川、置賜白川、岩木川、平川、馬淵川、米代川、名取川、最上川、寒河江川、中津川、胆沢川、荒川
- 3) 関東地方：富士川
- 4) 北陸地方：梯川、手取川
- 5) 中部地方：狩野川、安倍川、菊川、天竜川、庄内川、長良川、鈴鹿川、雲出川、櫛田川、宮川、土岐川、新川、藤前干潟、揖斐川、木曾川、矢作川、境川、津保川、武儀川
- 6) 近畿地方：猪名川、瀬田川、加古川、揖保川、九頭竜川、円山川、名張川、淀川、紀の川、貴志川
- 7) 中国地方：芦田川、馬洗川、佐波川、千代川、古川、根谷川、小瀬川、天神川
- 8) 四国地方：土器川、重信川、物部川、仁淀川
- 9) 九州地方：山国川、番匠川・井崎川、六角川、松浦川



鶴川(北海道)



江合川(宮城県)



信濃川(新潟県)



庄内川(愛知県)



円山川(兵庫県)



芦田川(広島県)



仁淀川(高知県)



六角川(佐賀県)

## 参加者のコメント(河川管理者から) 一部抜粋

### ■なぜここにごみがあると考えられますか？

#### ●漂着

- 上流部で捨てられたごみが流れてくる(富士川、安倍川、菊川、天竜川、円山川、土器川、重信川、六角川、他)
- 洪水、大雨で水位が上昇し流れ着いたごみが高水敷に残されている(高瀬川、鳴瀬川、馬洗川、他)

#### ●ポイ捨て、不法投棄

- 利用者による不法投棄(北上川、雲出川、土器川、最上川、鈴鹿川、櫛田川、宮川、他)

#### ●車から、車両走行が多いため

- 車や道路からのポイ捨て(北上川、鳴瀬川、平川、加古川、他多数)
- 河川敷道路が開放されている(雲出川)

#### ●人目につかない場所

- 交通量が少ない、建物ない、橋の下、植栽がある等(狩野川、千代川、佐波川、他)
- 河道内の樹木繁茂により人目につきにくい場所(札内川)
- 駐車スペースがあり人目につかない場所(江合川、置賜白川、馬淵川、胆沢川)

#### ●河川敷利用者が多い

- さまざまな利用者が多い。バーベキュー、釣り人が多い(名取川、千代川、他多数)
- 人口密集地から近く、人の通行量が多い(九頭竜川)

#### ●街なかから

- 多くは、街なかで投棄されたごみが降雨等で水路に流入から河川にと考える(名張川)
- 堤内地にはコンビニエンスストアがあり、買った品物と思われるごみが多数(淀川)

### ■ごみを減らすためにできることは？

#### ●ごみ箱設置、カメラ等

- 公園内へのごみ箱設置、ダミーカメラとセンサーライトの設置(安倍川、吉田川)

#### ●啓発・教育

- 地道な啓発活動、マナー教育(庄内川、北上川、他多数)
- 自治体と協力した啓発活動(常呂川)

#### ●アピール・呼びかけ

- 肥料袋が多く見られたことから、高水敷占有者への声かけ(注意喚起)(天塩川)
- ごみ拾い状況をSNSで周知(井崎川)

#### ●清掃活動

- ごみ拾いの輪をふやす(ごみ拾いをしている人が捨てることは考えにくい)(北上川)
- キャンプ利用者に、ごみ拾いをしている現況を見てもらう(井崎川)

#### ●進入禁止・車両対応等

- 車両通行止対応等が必要(札内川、岩木川、他)
- 花壇の設置、塀を高くする、ネットを張るなどの対策(吉田川、狩野川)



# 考察 参加者のコメント、 集計データより

個数調査に加え、参加者から「なぜここにごみがあるか」「ごみを減らすためにできること」などのコメントを報告いただいています。そのコメント、調査データから2024年の傾向を考えます。

## 参加者のコメント

参加者が記載したコメントを分類しました。(コメント記載のある市民307件、河川管理者70件の集計。重複カウント有)

### ■なぜここにごみがあると考えられますか？

1. 上流からの漂流・増水による漂着 (市民38件、河川管理者25件)
2. ポイ捨てや持ち帰りの意識欠如、不法投棄 (市民55件、河川管理者42件)
3. ごみ箱の不足・人目につきにくい環境 (市民28件、河川管理者14件)
4. 橋や駅、コンビニなど特定の場所に関連 (市民27件、河川管理者2件)
5. その他の背景要因 (市民82件、河川管理者9件)
  - 心理的要因：「既にごみがある場所に追加で捨てる心理」「景観が悪い場所はさらにごみが溜まりやすい」
  - 地域的・環境的要因：「風や動物によるごみの移動」「河川や用水路に溜まりやすい構造」「駐車スペース有」
  - 社会的背景：「人が集まりやすい場所でのごみ発生」「高齢者や若者が集まる特定の場所」「堤防天端が道路になっているため」

### ■ごみを減らすためにできることは？

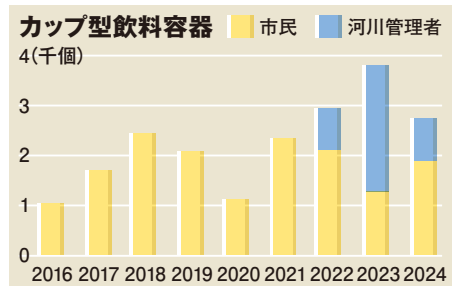
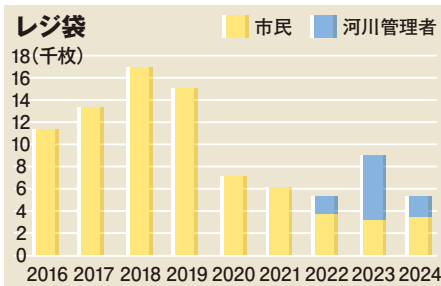
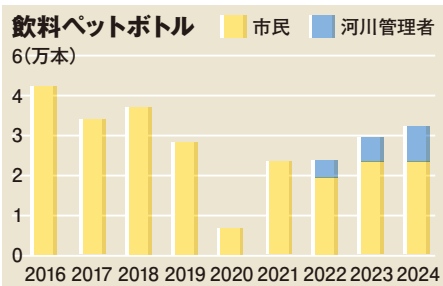
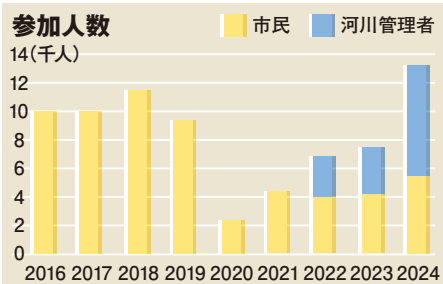
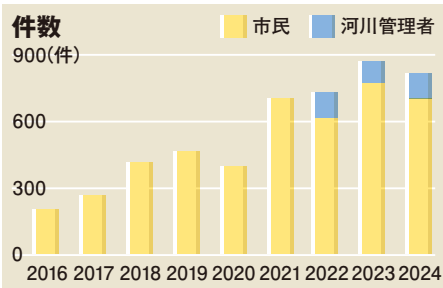
1. ごみ箱の設置や管理 (市民100件、河川管理者1件)
  - 川沿いに公共のごみ箱を設けて、ごみを捨ててもらおう呼びかける(市民)
- 看板、監視カメラ、花壇の設置 (市民18件、河川管理者11)
2. 教育や意識啓発 (市民5件、河川管理者7件)
  - 学校や家庭で教育すること、観光客が多いところでは持ち帰りを周知する(市民)
3. 地域の清掃活動 (市民14件、河川管理者2件)
  - 回収をこまめに行う(市民)
4. 取り締まり・規制強化 (市民3件、河川管理者1件)
  - 不法投棄の厳罰化を検討するべき(市民)
5. ごみの減量・リサイクル促進 (市民5件、河川管理者0件)
  - プラスチック製品の利用を最小限にし、リサイクルを徹底する(市民)
6. その他 (河川管理者6件)
  - 車両通行止め、ネットなどハードの対応、除草などで捨てにくい環境づくりなど

市民は、身近な街なかでの小河川や支流での調査が多く、河川管理者は河川数が広く堤防道路があるような一級河川での調査が多いことによる差異がありますが、いずれもレジャー等の利用者が多いため、逆に人目につかない環境のために投棄されていることが挙げられました。また、心理的要因や社会的背景なども指摘されました。ごみ削減に向けて、市民はごみ箱設置などの希望的なコメント、河川管理者は管理する側としての具体的な対策のコメントが多く見られました。

### ■ごみの状況とその対策について(河川管理者より)

- 上流で捨てられたごみが流れて着く
  - ➡ 上流キャンプ場などでごみを持ち帰る運動(呼掛け)などを行う
- 橋や県道からのポイ捨てが多い





- ポイ捨てが処罰対象となること(罰金等)の看板設置などをする
- 駐車スペース、車上からの不法投棄がある
  - ダミーカメラとセンサーライトの設置・花壇の設置をする
- 夜間は通行量も無く人目につかない
  - 一般交通供用の堤防天端以外は通行止めするしかないのでは
- 釣り人やバーベキュー等の利用者が多い
  - 立て看板による注意喚起、監視カメラの設置、パトロールを強化、河川敷への進入禁止など
- プラスチック袋、シート類が河畔林に引っかかっている
  - 肥料袋が多く見られた。高水敷占有者への声かけ(注意喚起)を行う

## 集計データより

2022年より河川管理者による調査が毎年100件前後報告されています。それにより件数、参加人数など全体としての増加傾向にあります。

河川管理者を除く市民の調査は、2021年以降件数はほぼ横ばいで、参加人数は若干増加傾向にあります。調査個数は、飲料ペットボトル、レジ袋、カップ型飲料容器ともに、2021年以降は、ほぼ横ばいとなっています。レジ袋については、2020年から2022年まで減少傾向が続き、その後は横ばいとなっています。



みなさんから報告いただいた本調査結果は、PETボトルリサイクル推進協議会、全国清涼飲料連合会、日本プラスチック工業連盟、一般社団法人プラスチック循環利用協会などへ報告し、コメントをいただいています。事業者、消費者共に、散乱するペットボトルを減らしていきましょう！

### ● PETボトルリサイクル推進協議会より

日本の使用済みPETボトルは、資源ごみとして92.5%\*が回収(回収率)され、再生工場ではリサイクルされ、再生材として再び各種製品の原料として使用されています(リサイクル率85.0%\*)。残りの資源ごみとして回収されなかったボトルは、ほとんどが可燃ごみ・不燃ごみとして回収され、適正処理されるのですが、残念ながらごく一部が散乱ごみとなっています。我々事業者、行政、市民の皆さんと一緒に自然界に散乱するプラごみを減らしていくことが重要ですので、引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

### ● 全国清涼飲料連合会より

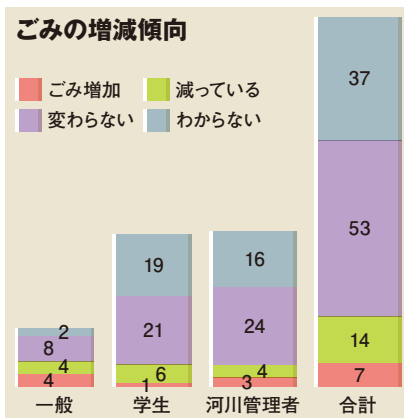
ポイ捨てされた清涼飲料ペットボトルを回収して頂き有難うございます。全国清涼飲料連合会では、積極的に清涼飲料ペットボトルのリサイクルに取り組んでおります。その結果として、リサイクルに熱回収を含めた有効利用率は98.6%\*です。有効利用されているリサイクル品としては、使用済みペットボトルから再びペットボトルへリサイクルする水平リサイクル「ボトル to ボトル」があります。更に、「ボトル to ボトル」を推進する為に、生活者の皆様には、引き続き、家庭では市区町村の排出方法に従い、外出先では、清涼飲料を回収するリサイクルボックスに排出をお願いします。

\*数値は2023年度PETボトルリサイクル推進協議会調査データ

# 考察 アンケート調査より

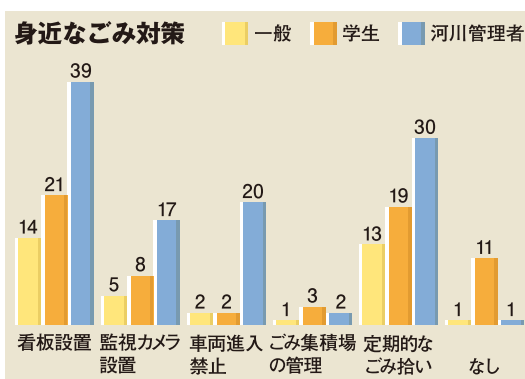
水辺のごみ見つけ! 調査の課題を把握すること、水辺のごみ対策の実践事例を皆で共有することを目的として2024年6月にアンケートを実施しました。その結果の一部を紹介します。

## 1. 最近のごみの増減の傾向



「わからない」の回答を除くと、約7割が「変わらない」、約2割が「減っている」、約1割が「増えている」の回答でした。減っている理由として、清掃活動の成果が多く挙げられました。ほかにも、プラの海洋汚染等が配慮されるようになった。河川環境に対する意識が高まっている。などの前向きな回答もありました。

## 2. (身近でみられる) ごみの対策

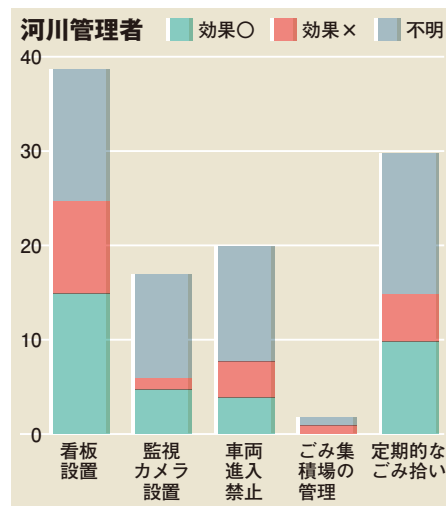
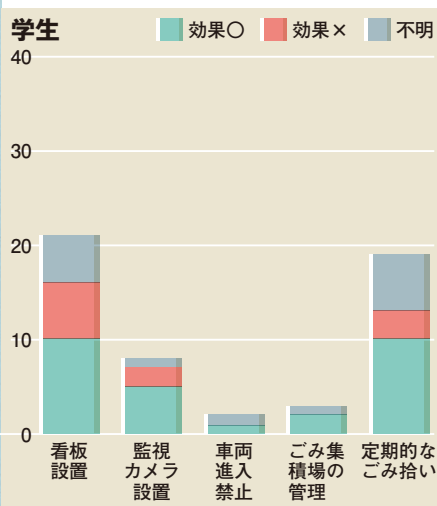
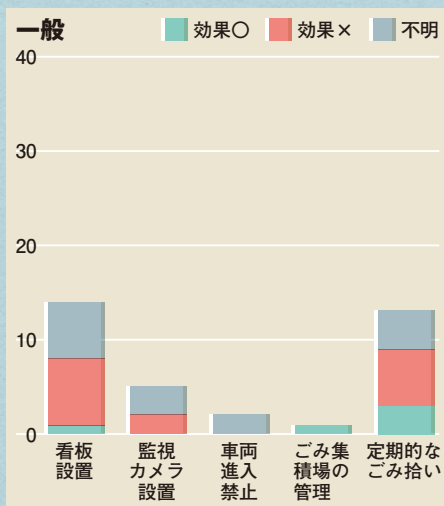


身近でみられるごみ対策としては、「看板設置」67%、「定期的なごみ拾い」56%が多く回答されました。その他の、ごみ対策では、地域の小学生が水辺調査、啓発でチラシやポスター作成、花壇づくり、などが回答されました。

## 3. ごみ対策の効果

市民は効果が少ないとの記述が多い反面、河川管理者は効果がみられるという記述が多く見られました。

場所(回答者)によって効果に対する見解が異なりました。





## 4. (自分たちが実施して)水辺のごみ削減に役立ったと思われること[成功事例]

ごみ集積場の改善と地域住民が管理を徹底した。看板の掲載内容を変更した。地域住民と自治体と連携してごみを撤去し再度の投棄がないよう徹底した。自主的なごみ拾いのごみの処分を河川管理者が行う。沿川市町と協働した継続したごみ拾いで意識醸成した。などの取組が回答されました。

### ■注目したいごみ削減の取組み

#### 事例1

##### ごみ集積所の管理

看板設置や集積所の改良はそれなりの効果を生んでいる。管理の甘い集積所の改善を住民に訴えている。

●河川ごみは生活ごみが多く、集積所の管理(生活ごみ回収後の清掃)ができていないところは散乱ごみが少ない。(市民団体)

#### 事例2

##### のぼり旗の効果的活用

SNSで賛同者を募り活動を始めた。活動報告を町、県の担当者へ報告している。町衛生組合連合会では、のぼり旗の設置の方法を変えた。1メートルおきに5本、道路両側に計10本を設置、それを二か所に設置した。

●町の中心部では各町内会が月1回ほど定期的に環境整備しているようなのでごみが落ちていない。花壇整備も含む。(市民団体)

#### 事例3

##### 不法投棄の撤去と持ち込み防止

よく不法投棄される場所のごみを付近の住民と自治体の清掃課に協力を呼びかけ撤去し、再度投棄できないように、車の進入ができない措置とダミーカメラの設置を行った。

●不法投棄の多い所に赤い小さな鳥居を設置。その場所への不法投棄は少なくなるが、他に捨てられているのではないかと思います。しかし、何か行動を起こさなければ変わらないので、これも方法としては有りだと思います。(市民団体)  
●課題は、ごみを処理する費用を少なくすること(個人が拾って家庭ごみとして処理するとか)。(河川管理者)

#### 事例4

##### 自主的ごみ拾いの支援

自主的な河川利用者(釣人、散歩)によるごみ拾いを歓迎している。(処分は河川管理者)

●課題は、BBQ等のごみを河川に置いて帰る人がまだいる。ごみ持ち帰りを徹底したい。  
●その他意見：上流・下流・支川・海と一緒に活動できれば効果はでてくると思います。沿川の企業も巻き込めば多くの参加者が期待できます。(河川管理者)

## 5. ごみ対策で課題と思われること

一般からは、意義がわかりづらいこと。メーカー等も一体に発生減対策が進んでいないことなど。

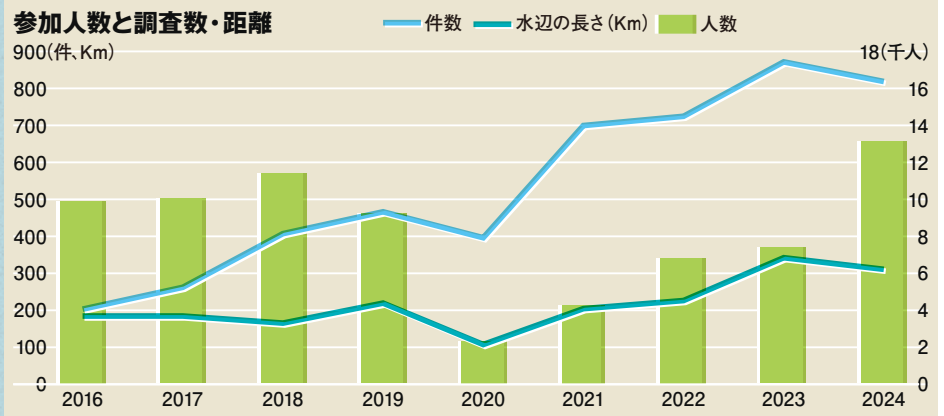
学生からは、ごみ箱がなく、回収することが困難なことなど。

河川管理者からは、処分費の負担が大きいことが多数。侵入防止柵を付けての課題や看板の数等の具体的な課題。対策を一部で行っても全体的な削減に繋がらないこと。などが回答されました。

# 水辺のごみ見つけ！から 見えてきたこと

2016年からスタートした水辺のごみ見つけ！調査は、  
2024年で9年目となりました。

## 9年間の推移



2020年は新型コロナウイルス感染症対策のため、調査件数、調査人数ともに減少しました。その後も大規模な清掃活動は減少し、個人や少人数グループによる調査報告を多くいただくようになってきました。

2022年からは、河川管理者による(地域住民が多く参加する清掃活動と河川管理者のみの清掃活動)報告が、2023年からは同志社大学 原田禎夫准教授の授業を受講した学生さんたちによる(多くは個人参加)報告が加わり、件数、人数ともに増加しています。

## 各年の結果集計より

調査結果を集計し、調査結果の傾向や、考察を発表してきました。

### ■2018年の調査結果より

国内河川に  
ペットボトル 推定 **4,000**万本<sup>※1</sup>

※1 川沿いの376地点(計延べ150km=河川総延長の約0.1%)で、ペットボトル41,433本であったことからの推計。

### ■2019年の調査結果より

ペットボトルは、河川約6mに1本、  
レジ袋は、約15mに1枚<sup>※2</sup>  
……川岸約8分(600m)歩くと、  
ペットボトル100本、レジ袋40枚見つかる<sup>※3</sup>

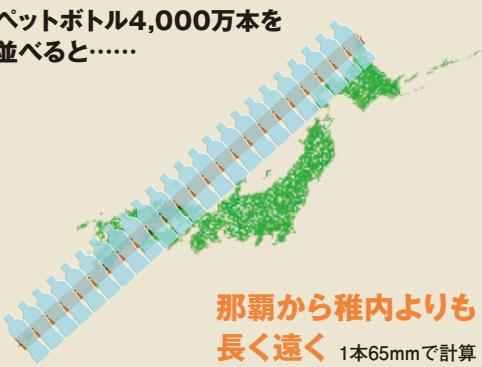
※2 川沿いの447地点(延べ約192kmで、ペットボトル31,890本、レジ袋12,636枚より)

※3 分速75mで算出

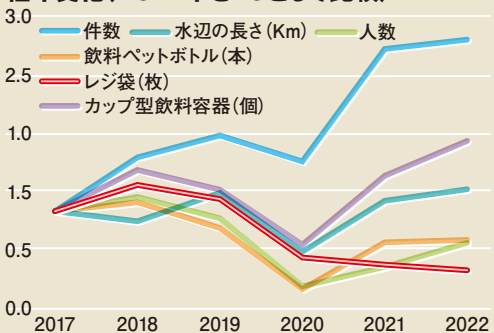
### ■2022年の調査結果より

2021、2022年は、調査件数の増加傾向(に合わせペットボトル、カップ型容器は増加)に比べ、レジ袋が減少傾向でした。2020年7月からの全国レジ袋有料化の効果ではないかと推測します。

ペットボトル4,000万本を  
並べると……



### 経年変化(2017年を1.0として比較)





## ■2024年の調査結果より

### 国内 河川に ペットボトル 推定 **1,800万本**~**3,200万本**※1

※1 川沿いの724地点、計延べ約284km。(川の片岸だけでなく両岸調査も考慮した水辺の長さは延べ計320km。)ここで、ペットボトル35,642本であったことからの推計。

2018年の推計値4,000万本は、川ごみが多い場所での清掃活動・調査報告が比較的多くあったことに依りましたが、2024年は、街なかでの身近な河川での清掃活動・調査が増えたことによる差異と推測します。

## ■年間1000トン回収 河川清掃はプラスチックごみ対策の肝要な取組み

東京理科大学 創域理工学部  
社会基盤工学科 嘱託助教

田中 衛

■はじめまして、東京理科大学にて嘱託助教をしている田中です。今回は河川清掃活動のプラスチックごみ回収効果について書いた拙著の解説の依頼を頂き、寄稿させて頂くことになりました。

■本論文はCountry-wide assessment of plastic removal rates on riverbanks and water surfacesというタイトルであり、日本語訳すると河川敷・河川水面におけるプラスチック回収率の全国評価といった題目になります。日本全国で毎年どの程度のプラスチックごみが河川から回収(除去)されているかを定量的に調査した研究です。この論文の作成を通じて新しい発見や気づきが多くありました。ここでは印象的だったものをいくつか抜粋して紹介したいと思います。1つ目は全国の河川清掃活動によって年間1,000トン以上のプラスチックごみが環境中から回収され適切に処分されているということです。この数値は、日本全国の河川清掃活動の参加者、回収量といった記録をまとめた国土交通省のデータセットから算出しています。学生とともに実際の河川ごみのプラスチック割合を調査し、最終的にはデータを校正したうえで上記の年間1,000トンという数値を得ています。大小の河川は血管のように非常に速いスピードで物質を運びますので、海へのプラスチックごみの輸送を促進してしまいます。高速道路の

ように海への到達時間を大幅に短縮してしまうのです。川の流れが一方方向であるように、プラスチックごみの移動もやはり不可逆的です。河川清掃はプラスチックごみ対策において肝要な取組みの一つだと考えます。

■2つ目は河川清掃が環境汚染の抑制に与えるインパクトが大きいということです。現在、陸から海へのプラスチックごみ排出量は年間10,000~20,000トン程度と見積もっています。この数値は複数の文献を参考にした私の見立てであり、環境省の令和5年度の試算では年間11,000~27,000トンとされています。前述のとおり回収量は年間1,000トンなので排出量の最大10%程度に相当すると計算され、これはプラスチックごみ対策において無視できない貢献だと思っています。また回収量の1,000トンは保守的な見積もりとなっており、例えば二級以下の水系は含まれていません。国交省の記録に載っていない回収もあるでしょう(民間、自治体等)。これらは今後の研究の課題となっています。私の知る限りですが、今回の研究のように河川プラスチック回収量の全国評価をしている国は日本を除いて他にありません。このような河川プラスチックごみに関する統計を把握、公表することが今後求められると思っており、日本がその旗振り役となることを期待します。

# 川ごみ問題を考える

全国川ごみネットワーク代表

金子博

**全**国各地の川や湖沼などの水辺でごみの清掃(回収)活動が展開されて数十年を経ているのに、なかなか改善が進まないことにいら立つことがあるかもしれません。この問題が抱えている多種多様な原因に加えて、環境中に出してしまったごみに対処する法制度が整っていないことも一因だと考えられます。そこに、マイクロプラスチック汚染という新たな問題が加わってきました。海洋プラスチックごみとしてとらえられていた問題が、陸域や大気を含む「プラスチック汚染」に深化したことで、川ごみ問題は一層厄介なことになっています。

**ご**み問題はごみ問題だけをとりえただけでは解決できないとも言えます。例えば、稲作で使用されている「被覆肥料カプセル」は高齢化する農業従事者の労力を軽減し、肥料の使用量を抑制するなどの効用があります。排出対策を農業者に迫るだけでは解決に至りません。そして、水でつながる流域全体での取組みも不可欠です。

**全**国川ごみネットワークは、ごみの無い川や湖沼などの水辺環境を取り戻したいとの思いを持つ人々を先ずはつないでいくことを目指しました。地域に特有の課題を踏まえながら共通の対応策を考え、関係省庁などの担当者や業界団体の方々との意見交換も重ねています。また、研究者の方々を招いてのオンラインセミナーも開催しているところですが、この問題への理解はまだまだ広まってはいません。先ずは現場を見て、現状を知ってもらおうと呼びかけたのが「水辺のごみ見つけ！」調査です。調査結果から得られる知見は限られていますが、関心を寄せる市民らが増えることが重要です。

**と**くにプラスチックごみを減らしていくためには様々な方策が必要です。ごみの投げ捨て行為などを無くすことは難しく、法制度などで規制していく措置も考えていく必要もあります。この場合、多数の市民の理解が欠かせません。「水辺のごみ見つけ！」調査やオンラインセミナーもそのための一つのツールです。

**私**たちは、現場や社会的制度などの諸課題を改善していくため、これからも一歩ずつステップを積み上げながら取組んでいきます。



## 調査実施団体・個人2024年

(掲載を希望しない団体・個人を除く)

### 【北海道】

NPO法人十勝多自然ネット、NPO法人帯広NPO28サポートセンター、むかわ町穂別河川愛護組合、NPO法人ダウン・ザ・テッシ、北海道カナディアンカヌークラブ、NPO法人天塩川を清流にする会、旭川河川事務所、今金河川事務所、札幌河川事務所、江別河川事務所、岩見沢河川事務所、滝川河川事務所、千歳河川事務所、帯広河川事務所、鶴川沙流川河川事務所、名寄河川事務所、遠軽開発事務所、北見河川事務所、幌延河川事務所、他

### 【東北地方】

川と海のビジターセンター、NPO法人パートナーシップオフィス、美ロード348プロジェクト、★美しい山形・最上川フォーラム、阿賀川・川の達人の会、ボランティアグループ「かけはし」、石巻・川のビジターセンター、(株)エフワーク、米代川の環境を守る会、広瀬川1万人プロジェクト実行委員会、北上川サポート協会、ふるさとの川・荒川づくり協議会、高瀬川河川事務所、北上川下流河川事務所(鹿島台・飯野川・米谷・鳴瀬・大崎出張所)、青森河川国道事務所(五所川原・藤崎・八戸出張所)、能代河川国道事務所、仙台河川国道事務所、山形河川国道事務所、岩手河川国道事務所(盛岡・水沢・一関出張所)、福島河川国道事務所、他

### 【関東地方】

NPO法人新田環境みらいの会、クリーンアップ砂川、★新河岸川水系水環境連絡会、まつどゼロウェイスト、★東京都市大学咸研究室、空堀川を考える会、NPO法人空堀川に清流を取り戻す会、多摩川とびはぜ倶楽部、都立久留米西高校(探究学習)、河と水辺を楽しむプロジェクト、隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会、台東学びのひろば2期、ふるさと清掃運動会実行委員会、(一社)大岡川川の駅運営委員会、富士川ファンクラブ六郷地区、みずとみどり研究会、富士山クラブ、(株)高山工業所、福田隆行、料治春陽、高橋隆昌、他

### 【北陸・中部地方】

下諏訪町諏訪湖浄化推進連絡協議会、諏訪湖創生ビジョン推進会議、木曾川河畔の文化的景観を守る会、NPO坂祝まちづくり推進機構、木曾川左岸遊歩道を守る会、江南市/木曾川中流域を愛する会、SDGs木曾川流域の地産地消を楽しむ会、安倍川流木グリーンまつり実行委員会、金沢河川国道事務所、沼津河川国道事務所、静岡河川事務所、浜松河川国道事務所、庄内河川事務所、木曾川下流河川事務所、木曾川上流河川事務所、三重河川国道事務所、小川紗友紀、山田優子、他

### 【近畿地方】

釣り人による清掃活動、★同志社大学(公共経済)、(公社)湘南工業団地協会、人と自然を守る会、NPO法人プロジェクト保津川、淀川河川レンジャー、南丹清掃(株)、京都友の会、舞鶴市立大浦小学校&大浦地域の方々、高槻市立第六中学校・自然観察同好会、門真エコネットワーク連絡会、ごみゼロ共創ネットワーク、三井住友海上火災保険株式会社、第一生命保険株式会社、日本武道玉谷道場スポーツ少年団、田上学区自治連合会、NPO地域と自然ちよいまる、淀川管内河川レンジャー、(株)フロンティア、猪名川河川事務所、琵琶湖河川事務所、姫路河川国道事務所、福井河川国道事務所、豊岡河川国道事務所、木津川上流河川事務所、淀川河川事務所、和歌山河川国道事務所、辻田良雄、山内美穂、大東輝彦・大東美輝、中村聡一、他

### 【中国・四国地方】

鳥取大学工学部社会システム土木系学科環境計画室、釣り人みんなで、ごみ拾い、佐波川に学ぶ会、あわっ子!エコ!クラブ、四万十川財団、田の口の環境を考える会、福山河川国道事務所、三次河川国道事務所、山口河川国道事務所、鳥取河川国道事務所、太田河川事務所、倉吉河川国道事務所、香川河川国道事務所、松山河川国道事務所、高知河川国道事務所、まちやゆず子、他

### 【九州地方】

龍王・山・里・川の会、GoodNews、ダイキン油機エンジニアリング(株)九州(営)、嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会、なつき河童団、NPO小竹に住みたいまちづくりの会、田川ふるさと川づくりの会、金辺川を楽しむ会、遠賀川いかだフェスタ実行委員会、原田自治犬鳴会、中島自然再生協議会、笹尾川水辺の楽校運営協議会、響みどりの会、嘉穂水辺の楽校周辺の環境を守る会、なつき河童団、次世代のためにがんばる会、山国川水質保全連絡協議会、弥生の森と清流を守る会、伊万里市コミュニティセンター、山国河川事務所、佐伯河川国道事務所、武雄河川事務所、中島重人、他  
(敬称略/順不同/その他個人多数)

※★印は、関連団体・個人でもたくさん調査いただいています。

※身近な水環境の全国一斉調査と共にご報告をいただきました。



全国川ごみネットワークは、  
こみのない美しい川や海をとりもどすこと、  
自然と共生する循環型社会の構築を目指し、  
川ごみの削減に取り組んでいます。  
全国的なネットワークで、情報共有と課題解決を推進します。

## 会員募集中! (随時)

全国で共に美しい川・湖沼・海を取り戻すことを  
目指す仲間(会員)を常時募集しています。  
団体の趣旨に賛同いただき、会員となって、共に、美しい川・湖沼・海を  
取り戻すことを目指すためにご支援ご協力をお願いします。

●正会員(団体・個人) 年会費 一口 2,000円

(企業様はできるだけ10口以上をお願いします) 入会ご案内は

●賛同会員(団体・個人) 年会費 無料

こちらから▶



# 水辺のごみ見つけ!は、 2025年も実施します



**調査期間：4月1日～11月30日**

いつでも好きな時に(事前申込不要)

**グループでも個人でも**

スマホから簡単に報告できます。

詳しくは↓



<https://kawagomi.jp/mikke/>

■発行



**全国川ごみネットワーク**

132-0033 東京都江戸川区東小松川3-35-13-204 TEL 080-8167-8577  
E-mail [kawa53@kawagomi.jp](mailto:kawa53@kawagomi.jp) URL <https://kawagomi.jp/>



公益財団法人河川財団による河川基金の助成を受けています